理系のキャリアを考える　理系ナビ特別インタビュー

就職活動はいままでの自分とこれからの自分に向き合う貴重な機会 ―常見 陽平

「就職内定率の低下」「採用スケジュールの後ろ倒し」など昨今のメディアでは就職活動の厳しさ、変化を伝える報道が続く。2013年卒の就職活動はどうなるのか。このたび理系ナビでは『くたばれ！就職氷河期』や『就活難民にならないための大学生活30のルール』など就職活動をテーマにした著書を多数執筆している人材コンサルタントの常見陽平氏にインタビューを行い、これから就職活動に臨む理系学生へのメッセージを聞いた。

昨今は就職活動の厳しさを伝えるニュースを多く目にします。これから就職活動に臨む学生はどういったことを意識すればいいのでしょうか。

就職活動に対して漠然とした不安を抱かれている方も多いかもしれませんが、まず「なぜ就職難なのか」を考えてみてください。これにはふたつ要因があります。メディアは主に不景気で採用が減っていると、〝経済的要因〟を持ち上げていますが、2012年度の採用予定数は前年比13・7％増との報道もある。実は企業の採用意欲はそれほど衰えていなくて、問題はもうひとつの〝構造的要因〟なんです。つまり企業が求める人材と応募者のミスマッチが広がり続けている。

企業視点でドライに言うならば、実は採用難なんですよ。では、企業はどんな人材を求めているのかといえば〝グローバル人材〟と〝理系人材〟です。語学力と異文化に対する柔軟性があるグローバル人材と、高い専門性を持った理系人材への採用意欲は高まっています。

企業にも危機感があって、マスを対象にした就職ナビサイトではそういった人材に出会えないのではないかと感じている。近年リクルーター制度が復活してきているのは、企業が最適な採用手法を模索している流れのひとつ。ネットじゃなく、アナログで学生にリアルな情報を直接伝え、求める人材と接点を持ちたいという欲求があるんです。

学生も就職活動のやり方を考える必要があると。

周囲に流されて皆がやっているやり方をやるのではなく、もっと前のめりでいいと思いますよ。少しでも興味があれば、自分の足で人に会って情報収集をしてください。就職活動は弊害もいろいろと言われますが、いい点もあって、しがらみなくいろんな業界の社会人に会えるのは就活生の特権です。教授推薦があるからといって受身になってしまう理系の方はもったいないですよ。理系は選択肢が多いのだから、いろんな世界を見て社会や企業についてもっと詳しくなってほしい。就職活動をいままでの自分とこれからの自分を考える貴重な機会にしてください。

著書の中で就職活動にあたっての意識変革が重要と書かれています。

少なくとも高校までの勉強は問題が与えられて明確な答えもあります。大学からは、自分で問題から見つけなければいけないのですが、まじめに勉強している学生ほどこれに気づいていない。さらに社会では答えもなく、自分で価値を生み出していかなければならない。この変化に気づかないまま就職活動に臨むのは危険ですよ。

学生と話していて感じるのは、これだけインターネットが発達して情報を得られる環境にあるのに社会と隔絶されているということ。自分の興味のある分野しか見えていなくて、社会で起きていることの本質が伝わっていない。ジュースひとつ取っても、どう作って売っているか、消費者に届くまでにどんな仕事がかかわっているかを知らないですよね。

フェイスブックやツイッターなどツールはどんどん進化していますが、自分から意識して情報収集しなければ必要な情報は得られません。だからこそアナログで人に会うのが大事なんです。私は学生に対して「社会人20人に会いなさい」と言っていて、これをやり切って就職活動がうまくいかなかった人はいない。最初はマナーから身に着けなければならず大変ですが、やり切れば意識や考え方を含めて大きく変わります。

企業の採用手法やスタンスで変化を感じている部分はありますか。

従来の1万人から100人を採用するようなやり方だと、本当に優秀な人か減点法に強い無難な人しか残らない。そうではなくて、その人のよい部分を評価する加点法での選考にシフトする企業が増

えています。具体的には「逆質問」で学生の本質を見極めたり、「47都道府県の中で日本から外すならどこ」といった正解のない質問で、回答までの論理性、思考のストレス耐性を問うような質問をするようになっています。

大手企業を中心に採用スケジュールを後ろ倒しにする動きがありますが、就職活動にどのような影響があるでしょうか。

悪い影響を与えるでしょうね。業界研究や自己分析の時間は削られ、学業にも逆に影響が出るかもしれない。まずいのは憧れで企業を選び、一通り選考で落とされて就職活動終了といったパターン。例年なら、そこから身の丈にあった企業選びや、自分の適性を見つめ直して……といったチャンスがあったのですが、期間が短くなるとそれもできない。スケジュール変更は学生にとって優しいことではない、と認識して就職活動に臨んでください。

中長期的なキャリアで意識すべきことはありますか。

「自分がどんな生き方をしたいか」を考える前に、まずは先人に学んでみてください。社会で輝いている人たちはどんな経緯があって現在があるのかを知るために、私は「自己分析の前に〝他人分析〟をやってみよう」と学生に勧めています。

経済人の経歴を読み込んだ上で、インタビューを見てみると背景が見えてきます。体育会系一筋で挫折も経験している、若手時代に尊敬する人との接点など……生き様から学ぶことは多いですよ。

自分については、「どうなりたいか」を考え、節目ごとに意味づけをするのが大切です。短期的には目の前の仕事を全力で取り組むのはもちろんですが、たまに振り返って「この仕事はどんな意味を持つのか」考えてみる。その繰り返しが大切。日々仕事に追われていると見過ごしがちなのですが、振り返ってみると意外とすごいことをしていたりします。特に社会人になってからは「あのプロジェクトをやった誰々」みたいな〝名刺代わりの仕事〟を作るように心がけてください。

そういったキャリアを見据えた上での会社選びのアドバイスは。

多様な選択肢があるかどうかですね。正直、新卒で一生の働き方を決めるのは難しいんですよ。それならば、入社してから進路変更ができる環境かどうかを見てみる。先輩社員はどんなキャリアを歩んでいるか、いざ入社してエンジニアという働き方が合わなかったらどうするか……新卒入社の企業を選ぶときは「肌が合うかどうか」こだわってください。

大学のテニスサークルだっていろいろありますよね。都内の某大学にはテニスサークルが80あるそうですが、そのうち2割が本気でテニスをやっていて、3割が課外活動もバランスよくやっている。残り5割は課外活動がメインのサークルだそうです。もし、国体目指してバリバリテニスしたい人が間違って三番目のサークルに入ったら1日で辞めますよね。私はこれを「キャリアのテニスサークル理論」と言っているのですが（笑）。会社も同じなんですよ。メーカーやITとひとくくりにいってもいろんな企業カラーがあるので、「肌の合う企業」を探してみてください。

あとは、どうすれば自分が会社で「活躍できるか」を考えてください。活躍という視点で企業や仕事を見ると、自分の強みをどう生かすのか、自分に何が足りないのかが見えてくる。駄目なのは「好き」なだけで企業を選ぶこと。これをやると大抵ずれてしまう。

最後に理系学生に向けてメッセージをお願いします。

就職活動だけを頑張る学生生活にはしてほしくないですね。せっかくの学生時代ですから、ひとつくらい他人に自慢できること、やり切ったことを作ってほしい。人間の体は思ったより丈夫なんで（笑）、若いうちに少し頑張ってみてください。

あとは、もっと広い視野を持ち、どうやったら日本や社会が良くなっていくかを考え、自分を鍛えていけば就職活動は心配ありません。理系の視点で、「この企業は今後どうすればよいか」と考えてみてください。でも社会人の先輩と会うときは謙虚に教えを請う姿勢で。いまの知識、能力では不足だということが見えてくるはず。理系の頭脳を持ってすれば、企業やビジネスのことを理解するのはそう難しくないと私は思っています。社会経済は多様で、フィールドは広い。自分が本当に活躍できるのはどこなのか、広く社会に目を向けてみてください。

常見 陽平
つねみ・ようへい

北海道札幌市出身。一橋大学卒業後、株式会社リクルート入社、その後大手玩具メーカーに転職し新卒採用に携わる。2009年より株式会社クオリティ・オブ・ライフ参加。新卒採用やキャリア教育をテーマにコンサルティング、講演、執筆活動などを精力的に行う。『就活難民にならないための大学生活30のルール』（主婦の友社）、『「キャリアアップ」のバカヤロー』（講談社プラスアルファ新書）など著書多数。

●著書紹介

『くたばれ！就職氷河期
―就活格差を乗り越えろ―』
角川SSC新書